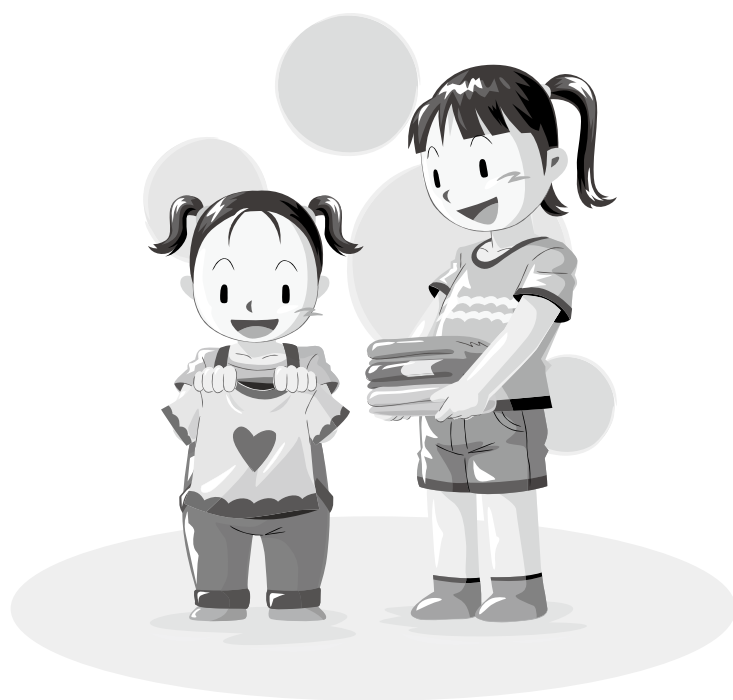


資料編



目次

・ 小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月改訂）	2
・ 幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月改訂）	6
・ 保育所保育指針（平成 29 年 3 月改定）	9
・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月改訂）	10
・ 5 歳児後半の年間指導計画	12
・ 10 の姿共有シート 記載例	16
・ 単元配列表	26
・ スタートカリキュラム 編成のポイント	27
・ スタートカリキュラム 4 月第 1・2 週 記載例	28
・ スタートカリキュラム 実践例	32

ホームページ 掲載資料 <http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311601/>

★5 歳児後半の年間指導計画

○5 歳児後半の年間指導計画（10 の姿を踏まえた接続カリキュラム）：様式・記載例

★スタートカリキュラム

○単元配列表：記載例

○スタートカリキュラム週案：様式・記載例

○スタートカリキュラム実践：様式・実践例

★10 の姿共有シート

○10 の姿共有シート：様式・記載例

★学びの芽生えから自覚的な学びにつながるイメージシート

○学びの芽生えから自覚的な学びにつながるイメージシート：記載 3 事例

小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月改訂）

第 1 章 総則

第 2 教育課程の編成

4 学校段階等間の接続

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の接続を図るものとする。

- (1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月改訂）

第 2 章 各教科

国語

第 1 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

第 3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (7) 低学年においては、第 1 章総則の第 2 の 4 の (1) を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

算数

第 1 目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (4) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

生活

第1 目標

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
(2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
(3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (4) 他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通じた総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。その際、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (5) 具体的な活動や体験を行うに当たっては、身近な幼児や高齢者、障害のある児童生徒などの多様な人々と触れ合うことができるようにすること。

音楽

第1 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
(2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (6) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

図画工作

第1 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (7) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

体育

第1 目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (5) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

第6章 特別活動

第1 目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (4) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (4) 異年齢集団による交流を重視するとともに、幼児、高齢者、障害のある人々などとの交流や対話、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を通して、協働することや、他者の役に立ったり社会に貢献したりすることの喜びを得られる活動を充実すること。

小学校学習指導要領解説 生活編（平成29年3月改訂）

第4章 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画作成上の配慮事項

スタートカリキュラムの編成

遊びや生活を通して総合的に学んでいく幼児期の教育課程と、各教科等の学習内容を系統的に学ぶ等の児童期の教育課程は、内容や進め方が大きく異なる。そこで、入学当初は、幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織り交ぜながら、幼児期の豊かな学びと育ちを踏まえて、児童が主体的に自己を発揮できるようにする場面を意図的につくることが求められる。それがスタートカリキュラムであり、幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続する重要な役割を担っている。

スタートカリキュラムは、平成20年の「小学校学習指導要領解説 生活編」において、「(前略) 学校生活への適応が図られるよう、合科的な指導を行うことなどの工夫により第1学年入学当初のカリキュラムをスタートカリキュラムとして改善することとした」と示された。今回の改訂においては、幼児期の教育と小学校教育の発達の特性を踏まえた学校段階等間の円滑な接続の観点から、更にその重要性が高まっている。第1章総則第2の4の(1)でも、「(前略) 特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと」が示されている。

小学校入学当初に、幼児期の学びと育ちを踏まえて、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出そうとする児童の姿を実現するための具体的な視点や方法として、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うことなどが追記された。ここでいう生活科を中心とした合科的・関連的な指導とは、他教科等との関連について前述したことと関連が深い。特に入学当初においては、重要な意味をもつスタートカリキュラムにおける合科的・関連的な指導では、児童の発達の特性や幼児期からの学びと育ちを踏まえ、児童の実態からカリキュラムを編成することが特徴であり、児童の成長の姿を診断・評価しながら、それらを生かして編成することが求められる。そのためには、幼稚園・認定こども園・保育所への訪問や教職員との意見交換、指導要録等を活用するなど、幼児期の学びと育ちの様子や指導の在り方を把握することが重要である。

スタートカリキュラムを編成する際には、例えば、「がつこうだいすき なかよしいっぱい」といった大単元を設定することが考えられる。大単元には「学校探検に行こう」「学校のはてなやびつくりを見付けよう」「見付けたものや人をお知らせしよう」などの小単元を位置付けていく。小単元の主な学習活動には、探検で見付けたことを絵に表したり、見付けた不思議を友達に伝えたりするなど、図画工作科や国語科と合科的・関連的に実施することで効果が高まるものがある。このように、つながりのある他教科等のねらいを考えて合科的・関連的に進める単元を構想していくことができる。ここでは、児童の実態や意識の流れに配慮した時間配分の工夫が重要である。

ここでいう弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫とは、入学当初の児童の発達の特性に配慮し、この時期の学びの特徴を踏まえて、10分から15分程度の短い時間で時間割を構成したり、児童が自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていけるように活動時間を設定したりすることなどが考えられる。

その際、幼児期に大切にしてきた生活リズムや一日の過ごし方に配慮することも重要である。例えば、

週案を作成する場合には、朝の会から1時間目を連続した時間として設定することも考えられる。そこに、幼児期に親しんできた手遊びや歌、リズムに乗って体を動かすことや絵本の読み聞かせ、児童からのお話タイムなど、児童が一日の始まりを楽しい気持ちで迎えられよう学習活動を取り入れたりする。また、時間配分においても、児童の生活リズムや集中する時間、意欲の高まりを大切に、10分から15分程度の短い時間を活用して時間割を構成したり、2時間続きの学習活動を位置付けたりするなどの工夫が考えられる。

また、スタートカリキュラムの実施に当たっては、児童が安心して学べる学習環境を整えることが重要である。幼児期の教育は、「環境を通して行う教育」を基本としており、教師に支えられながら幼児が自分の力で生活を創っていけるよう環境を構成している。小学校においても、児童が安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるように、児童の実態を踏まえること、人間関係が豊かに広がること、学習のきっかけが生まれることなどの視点で学習環境を見直すことが求められる。

第1学年の児童にとっては、スタートカリキュラムにおいて、幼児期の生活に近い活動があったり、分かりやすく学びやすい環境の工夫がされていたり、人と関わる楽しい活動が位置付けられていたりすることが安心につながる。また、安心して生活することで自分の力を発揮できるようになり、友達や先生に認められる経験を重ねてさらなる成長への意欲が高まる。そして、自分で考え、判断し行動するという学びのプロセスを歩んでいくことで、学習者として自立していくことができる。

スタートカリキュラムは、小学校生活のスタートを円滑に、そして豊かにするものである。全教職員でその意義や考え方、大切にしたいことなどを共通理解し、協力体制を組んで第1学年を見守り育てるとともに、児童の実態に即して毎年見直しを行いながら改善し次年度につないでいくことが重要である。その際、保護者にスタートカリキュラムの意義やねらいとともに、主体的に学ぶ児童の様子を伝えることは、保護者の安心感や学校への信頼感を生み出す。あわせて、スタートカリキュラムで学ぶ児童の姿を、幼稚園・認定こども園・保育所の教職員に見てもらい、改善のための協議を行うことも、双方の取組を振り返るために効果的である。

小学校入学当初の生活科を中心としたスタートカリキュラムは、児童に「明日も学校に来たい」という意欲をかき立て、これからますます重要になる幼児期の教育から小学校以降の教育への円滑な接続をもたらしてくれる。

幼稚園教育要領（平成29年3月改訂）

第1章 総則

第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

1 幼稚園においては、生きる力の基礎を育むため、この章の第1に示す幼稚園教育の基本を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。

- (1) 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
- (2) 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力の基礎」
- (3) 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

2 1に示す資質・能力は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体によって育むものである。

3 次に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園終了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである。

(1) 健康な心と体

幼稚園の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを意識するようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月改訂）

第 1 章 総則

第 3 教育課程の役割と編成等

5 小学校教育との接続に当たっての留意事項

- (1) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。
- (2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

(2) 解説（抜粋）

- ・幼稚園と小学校では、子供の生活や教育方法が異なる。
- ・子供の発達と学びの連続性を確保するためには、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼児期から児童期への発達の流れを理解することが大切である。
子供の発達を長期的な視点で捉え、互いの教育内容や指導方法の違いや共通点について理解を深めることが大切である。
- ・幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、小学校の教師との意見交換や合同の研究会や研修会、保育参観や授業参観などの連携を図るようにすることが大切である。
その際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有して意見交換を行ったり、事例を持ち寄って話し合ったりすることなどが考えられる。

幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月改訂）

第 1 章 総則

第 6 幼稚園運営上の留意事項

- 3 地域や幼稚園の実態等により、幼稚園間に加え、保育所、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図るものとする。特に、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のため、幼稚園の幼児と小学校の児童との交流の機会を積極的に設けるようにするものとする。また、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むよう努めるものとする。

解説（抜粋）

- ・特に、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のため、幼稚園の幼児と小学校の児童との交流の機会を設け、連携を図ることが大切である。
- ・例えば、生活科の授業で小学生が幼稚園を訪問し、入学してからできるようになったことを幼児に話して聞かせたり、幼児が小学校に出かけて高学年の児童と一緒に給食を食べたりするなどの機会を持つことによって、幼児は児童に憧れの気持ちをもったり、小学校生活に期待を寄せたりすることができる。一方で児童は、年下の幼児と接することで、自分の成長に気付いたり、思いやりの心を育んだりすることができる。
- ・これらの交流活動を意義あるものとするには、相互のねらいや方法などを踏まえ、継続的・計画的に取り組むことが大切である。実施に当たっては、年間計画を作成したり、事前の打ち合わせをしたり、交流活動後に互いの意見や情報を十分に交換したりするなど、相互の連携を図りながら取り組むことが大切である。

保育所保育指針（平成 29 年 3 月改定）

第 1 章 総則

4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項

(1) 育みたい資質・能力

ア 保育所においては、生涯にわたる生きる力の基礎を培うため、1 の(2)に示す保育の目標を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。

(ア) 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」

(イ) 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」

(ウ) 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

イ アに示す資質・能力は、第 2 章に示すねらい及び内容に基づく保育活動全体によって育むものである。

(2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

次に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第 2 章に示すねらい及び内容に基づく保育活動全体を通して資質・能力が育まれている子どもの小学校就学時の具体的な姿であり、保育士等が指導を行う際に考慮するものである。

ア 健康な心と体

保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

イ 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

ウ 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

エ 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

オ 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

カ 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

キ 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ経験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

ケ 言葉による伝え合い

保育士等の友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

コ 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

第2章 保育の内容

4 保育の実施に関して留意すべき事項

(2) 小学校との連携

ア 保育所においては、保育所保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。

イ 保育所保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、第1章の4の(2)に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、保育所保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めること。

ウ 子どもに関する情報共有に関して、保育所に入所している子どもの就学に際し、市町村の支援の下に、子どもの育ちを支えるための資料が保育所から小学校へ送付されるようにすること。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月改訂）

第1章 総則

第1 幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本及び目標等

3 幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

(1) 幼保連携型認定こども園においては、生きる力の基礎を育むため、この章の1に示す幼保連携型認定こども園の教育及び保育の基本を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。

ア 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」

イ 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」

ウ 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

(2) (1)に示す資質・能力は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体によって育むものである。

(3) 次に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている園児の幼保連携型認定こども園修了時の具体的な姿であり、保育教諭等が指導を行う際に考慮するものである。

ア 健康な心と体

幼保連携型認定こども園における生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

イ 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

ウ 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

エ 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

オ 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼保連携型認定こども園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

カ 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

キ 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

ク 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

ケ 言葉による伝え合い

保育教諭等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

コ 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

第2 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画等

1 教育及び保育の内容並びに子育て支援等に関する全体的な計画等

(5) 小学校教育との接続に当たっての留意事項

ア 幼保連携型認定こども園においては、その教育及び保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、乳幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。

イ 幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼保連携型認定こども園における教育及び保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

5歳児後半の年間指導計画（10の姿を踏まえた接続カリキュラム）

平成（ ）年度（ ）園 5歳児

3期 9月～12月	
子どもの姿	・友達との思いのぶつかり合いもあるが、いろいろな友達を誘い合って遊びを楽しむなど、友達関係に広がりが見られる。 ・遊びの中で新しいルールを考えたり、相談したり、協力したりすることが楽しくなっている。また、仲間意識も強くなり、チームを組んで競い合う遊びを楽しむことが多くなる。 ・自然物を使って工夫して遊ぶなど、秋の自然に興味をもったり、育てた作物の収穫を喜んだりする姿が見られる。 ・できなかったことに自分から挑戦したり、友達に励まされてやってみたりする姿が見られ、できた時には満足感を味わっている。
ねらい◎	◎友達と共通の目的をもち、考えを出し合ったり、協力したりして遊びを進める楽しさを味わう。 ◎自分なりの目的や見通しをもって取り組もうとする。 ◎自然物や自然現象に心を動かし、遊びの中に生かそうとする。
内容	・自分の考えを出したり、友達の思いを聞いたりして、より遊びが楽しくなるように、必要な物や場、役割などを考えて遊ぶ。 ①②③④⑤⑥⑨⑩ ・友達と誘い合って、戸外で力を出し切って遊ぶことを楽しむ。 ①②③⑦⑨ ・チーム意識をもって、競い合ったり挑戦したりして成功感や満足感を味わう。 ①②③④⑤⑥⑧⑨⑩ ・自分なりの言葉で思いや考えを伝えようとするとともに、相手の言葉や表現からその思いや考えに気付く。 ①②③④⑤⑥⑨⑩ ・危険な場所や遊び方、災害時の行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。 ①②④⑤⑥⑦⑧⑩ ・友達からの刺激を受け、自分なりの目的をもって生活する。 ①②③④⑤⑥⑨⑩ ・今までの経験を生かして、見通しをもったり、自分なりのこだわりをもったりして遊びを進める。①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ ・絵本や物語に親しみ、興味をもって見たり聞いたり、想像したりする楽しさを味わう。 ⑥⑧⑨⑩ ・音色の美しさを感じながら、歌ったり、楽器を演奏したりして楽しむ。 ②③⑥⑨⑩ ・リズムやテンポ等、音楽の特徴を感じながらのびのびと身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ①②③⑥⑨⑩ ・数や量、用途などを考えて、遊びや活動に必要なものを準備したり、確認したりする。 ①②③⑥⑧⑨⑩ ・文字や数や表示などに関心をもったり、それらを使ったりしながら、日常生活の中で、適当な表現方法や場面などについて知る。 ①③④⑤⑥⑧⑨⑩ ・秋の自然物を見付けたり使ったりして、遊びに必要なものを工夫して作って遊ぶ。 ①③⑤⑥⑦⑧⑨⑩ ・秋の昆虫に興味をもち、調べたり、観察したり、世話をしたりする。 ・季節や生活の変化に関心をもつ。 ①⑤⑥⑦⑨⑩ ・自分たちが育ててきた作物の収穫を喜ぶ。 ①③⑤⑥⑦⑩
環境構成☆ 援助○	○☆友達と相談したり力を合わせたりして、共通のイメージや目的に向かって考えたことが実現していく喜びや充実感を感じることができるよう、きっかけをつくったり、必要な用具や素材を自分たちで見つけていけるような配慮をする。自分たちで行事をすすめる充実感を味わっていけるようにしていく。 ○友達と遊びを進めていく中でいざこざになったときは、自分たちで考えを出し合い解決していく過程を大切にしていく。 ☆戸外の遊びが楽しくなるような遊具を子どもたちが自分で出し入れしやすいように準備し、力いっぱい体を動かす気持ちよさや楽しさを感じていけるようにする。 ○一人一人の挑戦意欲を受けとめ、頑張っていること、伸びたところを認めたり励ましたりしていく。また、周りの友達にもがんばっている姿を知らせ、自分もやってみようという気持ちをもたせていく。 ○☆身近な自然に積極的に関わり、どんぐりや落ち葉などの自然物を集めたり、自然の移り変わりや美しさ、おもしろさなどを感じたりしていけるようにする。また収穫の喜びを味わったりできるようにする。 ○自分の考えを十分に出したり、友達の考えを聞こうとしたり、お互いの良さを見つけ認め合いながら、一人一人の存在が生きる仲間づくりを支えていく。 ○☆生活や遊びの中で、並べたり、比べたり、量ったりして、数量に親しむ経験を重ね、感覚を豊かにしていく。また、買い物体験の中で、地域の方とのやりとりや本物のお金に触れたり、自分でお金を払ったりする体験ができるようにする。 ☆園生活の中で、自然に文字に触れられるような環境を整え、幼児年りの必要感をもって、伝える喜びや、楽しさを味わえるようにしていく。
家庭との連携	・運動会などの機会を通して、子どもとともに保護者も楽しみながら、子どもたちがたくましく成長している姿を共に実感し、確かめ、喜び合えるようにする。 ・保護者とともに、子どもの成長の変化を確認しながら連携を深める。 ・行事の保護者の参加を通して、クラスの保護者のつながりがさらに深まり、子どもと一緒に楽しめるようにしていく。 ・保育参加では、子どもと一緒に楽しむ中で、子どもへの理解を深めたり、成長を感じたり、保護者としての役割を感じていけるようにしていく。 ・各便りや懇談会などを通して、園での活動や遊びの意味や見方を理解してもらうとともに、保護者の意見も取り入れて、一緒に考えていくことができるようにする。 ・個人面談などを通して、子どもとのよりよい関わりをお互いに理解し、保護者を支えていく。

【記載例1】

4期 1月～3月	
	・クラス全体で一つのことに取り組み、話し合ったり教え合ったりしながら、みんなで力を合わせて遊び、生活することを楽しんでいる。 ・相手の意見に耳を傾けたり、自分が言いたいことを理解してもらおうとしたり、お互いのよさを認め合って遊びを進めている。 ・数量や文字に興味や関心をもって取り入れて遊ぶ姿がある。 ・小学校の生活に喜びや期待をもち、何事においても意欲的で積極的に遊びや仕事に取り組む姿が見られる。
	◎クラス全体で共通の目的をもち、力を合わせて遊びや生活をすすめていこうとする。 ◎充実感を味わい、自信をもって園生活を楽しむ。 ◎冬の自然や春の訪れを楽しむ。
	・自分の力を出し合い友達と競い合うことを楽しんだり、友達と相談しながら遊びや仕事を進めたりする中で、生活のきまりの大切さを知り、それらについて話し合ったり守ろうとしたりする。 ①②③④⑤⑥⑨⑩ ・クラスまたは幼稚園全体の活動に意欲的に取り組み、最後までやり遂げる。 ①②③④⑤⑥⑧⑨⑩ ・友達の考えやよさを認め、教え合ったり助け合ったりして遊びや活動をする。 ①②③④⑤⑥⑨⑩ ・文字や数量、図形などに関心をもち、遊びや生活の中で用いようとする。 ①②③⑥⑧⑨⑩ ・1年生になる喜びと期待をもち、いろいろなことに積極的に取り組む。 ①②③④⑤⑥⑧⑨⑩ ・自分の役割が分かり、友達と相談して遊びや活動を進める。 ①②③④⑤⑥⑨⑩ ・お別れの行事や卒園式などを通して、自分や友達の成長を感じたり、大きくなったことを喜んだりして、自信をもつ。 ①②③④⑤⑥⑧⑨⑩ ・冬の自然事象に興味や関心をもち、友達と考えたり工夫したりして遊ぶ。 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ ・冬から春への季節の変化を感じとり、興味をもって関わっていく。 ①②⑥⑦⑧⑨⑩ ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現
	○自分の考えを十分に出したり、友達の考えを聞いたりしながら遊びを進めていけるように見守ったり問いかけたりする。またいざこざなどが起きた時は、自分たちで考え解決しようとする過程を大切にしてい ○一人一人が力を発揮して目的をもち実現できるように、一緒に考えたり、クラスで気持ちを合わせていく機会をもったりして、意欲や自信へとつなげていく。 ☆自分たちで遊びの計画を立てたり、目的をもって取り組んだりできるよう、必要な用具や素材を十分に準備し、子どもたちで探したり、イメージにあった環境をつくったりしていけるようにする。 ○自分なりの課題を見つけて、繰り返し挑戦したり、最後まで頑張ろうとしたりする姿を認め、充実感や満足感が味わえるようにする。（生活面や友達への関わり、いろいろな運動遊び、用具の使い方など一人一人の状況を把握し、具体的に関わっていく） ☆○霜柱や氷、雪などの自然に親しみ、発見したり試したりできるように子どもたちの発見や考えを周りに広めたり、共感したりしていく。また、冬から春への季節の移り変わりに気付いたり、興味をもったりしていけるように、戸外で積極的に遊ぶなどして子どもたちの気付きを受けとめていく。 ○1年生との交流などを通して、小学校への期待を大きく膨らませ、園生活を自信をもって進め、大きくなったという充実感がもてるようにする。 ☆年中児に当番活動の仕方を教えたり、異年齢と触れ合ったりする機会を多くもち、自分たちのできることを伝えていこうという気持ちを育てていく。
	・小学校入学に向けての不安が少なくなるように、子どもの成長を伝え、具体的にどのような準備をすればよいか知らせていく。基本的生活習慣の見直しを図る。（早寝・早起き・朝ごはん、排便のリズム） ・生活アンケートの実施、実態を把握する。 ・就学への心構えや基本的生活習慣を再確認する。 ・集団生活を通し、協力し合い、認め合う中で、共に育つことを伝える。 ・保護者の期待や不安を知り、適切に対応する。 ・お便り等で活動やねらい、子どもの様子等を伝える。 ・入学が楽しみになるような家庭での会話を心がけるよう伝える。 ・子ども自身で伝達する力が育まれるよう、園生活に必要な物を親に伝え、自分で用意して園に持ってくる経験など、生活に必要な準備などを少しずつ自分でできるように園と家庭が協力する。

5歳児後半の年間指導計画（10の姿を踏まえた接続カリキュラム）

平成（ ）年度（ ）園 5歳児

3期 9月～12月	
子どもの姿	・体を動かすことを喜び、マスト、跳び箱、鉄棒、雲梯などの遊具や用具を使って、自分なりの目標に向かって挑戦する姿が見られる。できないことをすぐに諦めず、自分なりに何度も何日も挑戦したり、保育者に励まされて取り組んだりする。 ・好奇心や探究心をもち、身の回りの出来事や自然事象に触れ、変化に気付き感動したり、野菜の収穫を喜んだりする。 ・共通の目的をもって思いや考えを出し合い、工夫しながら遊びを進めていこうとする。 ・絵本や物語などに親しみ、友達と言葉やストーリー、楽曲の面白さを共有し、感じたり考えたりしたことを、劇遊びや合奏、歌などいろいろな方法で表現しようとする。
ねらい◎	◎集団遊びや様々な遊具や用具を使った複雑な運動などで体を動かすことが心地よいと感じ、進んで体を動かして遊ぶ。 ◎共通の目的に向かって友達と協力して活動に取り組む。 ◎相手の言葉や話をよく聞いて、自分の思いや考えなどを相手に分かるように伝えようとする。 ◎身近な自然や社会事象に関心をもち、変化に気付いたり感動をしたりする。 ◎いろいろな活動や遊びを通して、自分の力で最後までやり遂げ、満足感や達成感を味わう。 ◎友達が困っていたら、自分には何ができるだろうと考え、友達のために何かをしようとする。
健康・人間関係・環境・言葉・表現 内容	病気の予防に関心をもち、健康な生活に必要な基本的な習慣や態度を身に付ける。①②④⑦ 運動器具や遊具の安全な使い方を守り全身を使って遊ぶ。①②④⑦⑩ 危険を認知し周りの安全に気を付けて行動する。①②④⑦ 友達と考えを出し合い、力を合わせて目的をやり遂げようとする。①②③④⑥⑨⑩ 友達と役割を話し合って分担するなど、助け合って遊ぶ。②③④⑥⑨⑩ 異年齢児との関わりを深め、思いやりやいたわりの気持ちをもつ。②④⑤⑦⑨⑩ 季節の変化に気付き、収穫を喜んだり、自然物を使って様々な遊びを楽しんだりする。①②⑤⑥⑦⑧⑩ 生活の中で、言葉や文字、記号、数量、時間などに関心をもちて使う。①②⑧ 自分たちの表現したいことを伝える手段として、身の回りの自然物や素材を取り入れて遊ぶ。①②③⑥⑧⑨ みんなで共通の話題について話し合うことを楽しむ。②③④⑥⑨ 絵本、詩、物語などを聞いて表現しながら、言葉の面白さや美しさに気付く。⑤⑥⑧⑨⑩ 感じたり考えたり想像したりしたことを表現し、遊んだり演じたりする楽しさを味わう。①②⑥⑨⑩ 様々な素材や用具を利用してイメージを実現しようとする。②⑤⑥⑧⑩ 様々な音色やリズムを知り、みんなで一緒に歌ったり楽器を打ったり弾いたりして楽しむ。②③⑥⑨⑩
環境構成☆ 援助○	☆遊びの中で数えたり、並べたり、比べたり、文字を使ったりできるような遊びを投げかけ環境構成する。 ☆身近な季節の変化に興味関心がもてるように、園外に出かけたり生活に取り入れれたりできるようにする。 ☆イメージが膨らむような遊びを見通した様々な材料を準備しておく。 ○友達同士で良さを認め合えるようにする。 ○子どもたちのイメージを大切にしながら、目標に向かって考えたり工夫したりして進められるように援助し、取り組んだ実感や充実感を味わえるようにする。
食育	・食べ物働きを理解し、食べ慣れない物、苦手な物も食べようとする。 ・旬の食材に触れ、収穫の喜びを味わう。
連携・家庭との	・小学校との連携や情報交流を基に、就学に向けて一人一人の発達課題を見直していく。 ・地域の人やお年寄りとの交流を深め、身近な人への感謝の気持ちをもつ。

【記載例2】

	4期 1月～3月
	・小学生との交流等を通して、就学への期待が膨らみ、生活や遊びに意欲的に取り組んでいる。 ・進んで異年齢児と関わり、自分たちがしてきた遊びや仕事を喜んで伝えるなどして交流が深まる。 ・仲間意識が高まり、互いに認め合いながら友達を思いやる気持ちが見られる。 ・知的好奇心が旺盛になり、生活や遊びの中で身近な文字や数に関心が高まり、自分で読んだり書いたりする姿が見られる。
	◎寒さに負けず友達と一緒に体を動かす楽しさを味わう。 ◎冬から春への自然事象に興味関心をもって、よく見たり試したり気付いたりする。 ◎自分の思いや考えを言葉で伝えながら、遊びや活動を自分たちで進めていく。 ◎就学への期待をもち、集団に必要なきまりを守り見通しや目標をもって生活する。 ◎様々な経験を生かしながら、友達と協力して遊びを進めていく充実感を味わう。 ◎異年齢の友達に自分から声をかけ、相手のことを思いやって活動する。
	冬の健康的な生活に必要な習慣を身に付け進んで行動する。 ①②④⑥⑦ 寒さに負けずに十分に体を動かしいろいろな運動遊びに取り組む。 ①②③⑥⑦⑩ 自分たちでルールや遊び方を考えたり決めたりして遊ぶ。 ②③④⑥⑨⑩ 友達との関係が深まり、相手の良さを知り受け入れながら自分の生活を楽しむ。 ②③④⑤⑥⑨⑩ 友達との関係の中で、良いこと、悪いことを考えながら行動する。 ①②③④⑤⑥⑨ 異年齢の友達に遊びを教えたり仲間に誘ったりして、いたわって遊ぶ。 ①②④⑤⑥⑨⑩ 生活の流れが分かり見通しをもって行動する。 ①②⑤⑧ 入学の喜びや期待を膨らませ、意欲的に生活する。 ①②④⑤ 冬の身近な事象に関心をもち取り入れて遊んだり、動植物の様子から春の訪れに気付いたりする。 ⑥⑦⑩ 人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。 ②③④⑥⑨⑩ 場面や状況、相手に応じた適切な言葉を使う。 ④⑥⑨ 感じたことや想像したことを、言葉や体、音楽、造形など様々な方法で表現して楽しむ。 ①②③⑥⑦⑧⑨⑩ ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現
	☆異年齢児との関わりがもてる場面を設定し、いろいろな当番活動が経験できるような工夫をする。 ☆自分なりの目標カードなどを準備し、目当てをもって活動に取り組めるようにする。 ○めあてに向かって、なってみたい自分の姿に向けて繰り返し挑戦する姿を認めたり励ましたりして、達成感や満足感を味わえるようにする。 ○異年齢児と接する中で、自分の成長を感じられるように、また、人の役に立つ喜びを感じられるようにする。 ○園生活を振り返り、一人一人が自信をもち、仲間という楽しさやクラスのつながりやまとまりを実感できるようにする。
	・調理体験等を通して、いろいろな食材に触れたり嗅いだりして、食材や料理にも関心をもつ。
	・子どもの育ちを支えるため、小学校への申し送りを丁寧に行い発達の連続性を図る。(スマイルサポート会議の実施) ・気がかりな子への丁寧な支援のために、関係諸機関と積極的に連携する。(教育相談の実施)

①健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

幼児期
年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期
一年生の入学当初
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- 体を動かす様々な活動に自分なりに目標をもって挑戦したり、困難なことにつまずいても気持ちを切り替えて乗り越えようとする。
- 生活の流れや状況の変化などを予測して、準備や片付けを行うなど、保育者の助けを得ながら見通しをもって園生活を送る。
- 5～6人で自分たちで遊び方やルールを考えたり守ったりして遊ぶ。
- 自分で排泄や始末ができるようになり、和式のトイレも使えるようになる。
- 自分の持ち物を大事にしたり、ロッカーや道具入れなどに片付けたりするようになる。
- 自分で衣服を着脱し、活動により体操服やパジャマに着替えたり、暑さや寒さによって衣服を調節したりしようとする。
- 病気の予防に関心をもち、体の不調があれば身近な大人に知らせることができる。

- 避難訓練などを通し、災害時や非常時に自分の身を守ろうとする。
- 右側通行、信号の見方、横断歩道の渡り方、道路の横断の仕方など身近な交通ルールが分かって守ろうとする。
- 周囲の安全に気を付けて行動する。

- いろいろな食べ物に親しみ、苦手の食材もがんばって食べようとする。
- クラスの友達と一緒に楽しく食べる。
- 野菜を育て収穫したり、料理してもらって食べたりし、食べ物に関心をもち栄養などにも気付くようになる。

④園の畑で収穫したタマネギをむいたり切ったりして、すぐに鉄板焼き。「焼くと色が変わって甘いおいになるね～」

保育者が大切にしてきたこと

- 自分なりの目的を見つけ、取り組むことができるよう、一人一人の育ちや課題に合わせて関わる。
- 遊びに使う遊具や用具を子どもたちが自分で出し入れできるように準備したり、力いっぱい体を動かす気持ちよさや楽しさを感じたりできるようにする。
- 基本的な生活習慣では、個人差を考慮して保護者への啓発を行い、家庭の実態に応じた取組を考えていく。



小学校教員が大切にすること

- 活動の中で、児童が自己決定する場面を多く設定し、主体的な学びになるように留意する。
- 安全に安心して遊べる場所を確保する。
- 児童自らが活動や学習の見通しをもてるよう、黒板に掲示したり、継続的に取り組めるようゆとりをもった時間を確保したりするなどの支援をする。

②自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

幼児期
年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期
一年生の入学当初
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- 生活の流れが予測できたり、周りの状況を感じ取って自分で行動できるようになる。
- 日直活動を1～5人でやり、朝の会や帰りの会を進めるなどして達成感を得る。
- 異年齢児の世話や手伝いをして、自分が頼りにされる役に立つことを実感する。
- 自分のことは自分でやろうとし、できないときには先生や友達の助けを借りて自分でやり遂げようとする。保育者の励ましや促しがほしい時もある。
- いろいろな活動や遊びで、失敗しても諦めずに自分の力でやり遂げた満足感や達成感をもつようになる。

⑧朝の会が終わると、チーム(5～6人)の友達を誘って一緒に畑の水やり(役割)をする。



保育者が大切にしてきたこと

- 自分なりの課題を見つけて繰り返し挑戦したり、最後まで頑張ろうとする姿を認め、充実感や満足感が味わえるようにする。
- 小学校生活に期待が高まる半面、不安をもつ子どももいる。生活面や友達への関わり、いろいろな運動遊び、用具の使い方など一人一人の状況を把握し、具体的に関わる中で自信をつけていく。
- 異年齢児と接する中で、自分自身の成長を感じられたり、人の役に立つ喜びを感じられたりするなど自信をもって行動するようにしていく。

小学校教員が大切にすること

- 児童が幼児期の経験を生かして自己を発揮しながら活動できるように、保幼小連携により、幼児期の育ちを把握し、児童にこれまでの経験を振り返る機会を設けたり、尋ねたり、任せたりする場面を意識して取り入れる。その際、達成感や成就感を味わえるよう、実態に応じた支援を行う。
- 児童の学級や学校生活の課題解決に向けての積極的な取組や、ねばり強い取組に対し共感的に評価する。

- 自分の当番の仕事に対して、活動する時間帯を考えたり、活動の仕方を工夫したりしながら取り組む。
- 自分の意見を先生や友達に進んで発表する。
- 分からないことや難しいことがあれば先生や友達に聞いたり、できている子をモデルとしてまねたりしながら取り組む。
- 生活や学習での課題を自分の課題として受け止めて、意欲的に取り組んだり、最後まで諦めずに取り組んだりしようとする。
- 先生や友達との生活や、地域の人との関わりの中で、自分でできることは自分でやろうとする。

③協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

幼児期 年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期 一年生の入学当初
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- ・いろいろな友達と積極的に関わり、友達の思いや考えなどを感じながら行動する。
- ・友達と一緒に遊びを考えたりルールを作って楽しく活動できるようになる。
- ・自己主張がぶつかりけんかになったり、思いや考えが違っていると感じる経験をしたりしながら、だんだんと自分の思いの出し方を考えたり、我慢したり、葛藤したり、折り合いをつけて気持ちを切り替えたりして遊びを進めていくようになる。
- ・友達との関わりを通じて、互いのよさを分かち合い、楽しく遊びや生活を進めていくとする。

- ・クラスで共通の目的をもって話し合ったり役割を分担するなど実現に向けてやり遂げようとする。

- ・劇遊びで、同じ役の友達と、お面や小道具などを考えたり描いたり作ったりする。思いがぶつかりその都度活動が止まってしまうこともあるが、自分のことだけでなく友達のことも考えて進めるよう援助していく。
(11月下旬～12月下旬)

- ・友達と協力し、必要なときには集団行動がとれるようになる。

保育者が大切にしてきたこと

- ・自分の考えを十分に出したり、友達の考えを聞いたりしながら遊びを進めていけるように見守ったり投げかけたりする。またいざこざが起きた時は、自分たちで考え解決しようとする過程を大切にしていく。
- ・一人一人が力を発揮して目的をもち、実現できるように、一緒に考えたり、クラスで気持ちを合わせていく機会をもち、意欲や自信へとつなげていく。
- ・友達の得意なことや知っていることを学級で認め、遊びや生活の中で自信をもって力を発揮できるようにする。

小学校教員が大切にすること

- ・少人数グループで自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりする。
- ・同じ目的に向かってグループや学級全体で取り組む中で、互いの存在やよさに気づき、仲間と一緒に活動することの楽しさを感じる。

- ・入学当初は、児童の人間関係(出身園が同じ、家が近所など)に配慮したグループを組織し、活動の広がりとともに、人間関係が広がるような活動を取り入れる。
- ・友達などとの協力による活動のねらいの達成や、学級、学校生活の課題解決に向けて、話し合ったり、みんなの考えをまとめたり、実際に活動したりする中で、満足感や充実感、連帯感が味わえるようにする。

④道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

幼児期 年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期 一年生の入学当初
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- ・仲間意識ができ、一緒に過ごす中で、友達のよさに気付く。
- ・みんなで使うものに愛着をもち、大事に扱う。
- ・他者の気持ちに共感したり、相手の立場から自分の行動を振り返ったりする経験を通して、相手の気持ちを大切に考えながら行動する。
- ・友達の気持ちに気付いたり、折り合いを付けたし、自分の気持ちを調整できるようになる。

- ・相手も自分も気持ちよく過ごすために、してよいことと悪いこととの区別などを考えて行動する。
- ・クラスのみんなと心地よく過ごしたり、より遊びを楽しむためのきまりがあることが分かり、守ろうとしたりする。きまりを必要に応じてつくり替えたり、新たにをつくったりする。

保育者が大切にしてきたこと

- ・日々の様々な出来事について一人一人の気持ちに添いながら、場面や機会をとらえて内容に応じて周囲の仲間伝えたり、クラスで考えたりしていく。
- ・子ども同士のいいところ探しにつながるように、保育者も子どものよさを言葉にして伝えていき、子ども同士のつながりがさらに深まるような援助をする。
- ・友達やクラス全体で協働する楽しさや、充実感を味わえるような機会をつくり、クラスの一人一人が大切な仲間であり、かけがえのない存在であることを感じ取れるようにする。

小学校教員が大切にすること

- ・友達と過ごす中で、自分の言動を振り返り、自分の気持ちや行動を調整する。
- ・友達と意見の違いがあっても、相手の気持ちを考え理解しようとする。
- ・学校のきまりやルールは、みんなが楽しい学校生活を送るために必要であることを理解し、自分たちできまりを考えることができる。また、そのきまりを守ろうとする。

- ・「～しましょう」「～はしません」と教師が一方向的に指導するのではなく、幼児期の経験を引き出しながら、「できることは何か」「どうすればいいか」「どのようなルールが必要か」等の話し合いからきまりをつくっていくようにする。
- ・生活や学習をする上で、友達と心地よく過ごす経験を十分に味わい、より楽しく生活したり、学習したりするために必要なきまりやマナーについて考える機会を設ける。また、それらのことについて考えたり、実現したりしている児童を積極的に評価する。

⑤ 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

幼児期 年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期 一年生の入学当初
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- 小学生・中学生、地域の様々な人々に、自分からも親しみの気持ちをもって接する。
- 機会を捉えて外国の人や文化に触れ合い、親しみや関心をもつようになる。
- 地域のお店に買い物に出かけたり、一人暮らしのお年寄りに手紙を書いたりし、関係の深い人々との触れ合いの中で、自分が役に立つ喜びを感じる。
- 友達同士で目的に必要な情報を伝え合ったり、活用したりする。
- 公共の施設を訪問したり利用したりして、自分にとって関係の深い場所であることがわかる。

- 親や祖父母など家族から愛されていることに気付き、家族を大切にしようとする気持ちをもつ。

◎祖父母参観日には、触れ合って遊ぶ体験を計画的に実施する。



保育者が大切にしてきたこと

- 日頃から地域や地域の方との交流を大切に、園にとって地域が重要な役割を持っていることを知ってもらい、様々な情報や機会を得られるようにしていく。
- 祖父母や地域の方が園や子どもたちの存在を大切に思ってくれることなどを折に触れて子どもたちに伝え、喜びとして感じられるようにする。
- 就学時健診や小学生との交流などを通して、小学校生活を身近に感じ、期待をもてるようにする。
- 一人一人が自信と誇りをもって就学を迎えられるように、不安を感じている子どもには特に配慮していく。

小学校教員が大切にすること

- 登下校などで公園などの公共の場所やスーパー、「こども 110 番」の掲示のある家があること、地域のイベントなどから自分たちの生活と地域に関わり合っていることを知る。また、その中で地域の人々の支え合いなどへの気付きを大切にすること。
- 家族や先生、地域の人との温かい人間関係を学級や学校生活に生かしている場面を認める。
- 子どもたちの安全や学校生活を見守ってくれる地域の方との出会いを仕組み、繰り返し関わることで、児童の身近な地域の方への思いを深められるようにする。

⑥ 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

幼児期 年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期 一年生の入学当初
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- 自分の考えを出したり、友達の思いを聞いたりして、より遊びが楽しくなるように、必要な物や場、役割などを考えて遊ぶようになる。
- 今までの経験を生かして見通しをもったり、自分なりのこだわりをもったりして遊びを進めるようになる。
- 友達の考えに触れる中で、自分の思いや考えを考え直したり、新しい考えを生み出そうとしたりする。
- 身近な物や用具などの使い方を知り、性質を知って、イメージを膨らませたり、いろいろな予想をしたりし、楽しみながら遊びに取り入れる。

◎夏祭りの経験から、「ジュースじどうはんばいき」と看板ができてお店さんが始まる。
「バナナジュースにブドウジュースもあるよ」



保育者が大切にしてきたこと

- 自分たちで遊びの計画を立てたり、目的をもって取り組めるよう、必要な用具や素材を十分に準備し、じっくり関わる時間や空間を大切に、子どもたちで探したりして、イメージに合った環境をつくっていかけるようにする。
- 自分の考えを十分にしたり、友達の考えを聞こうとしたり、お互いのよさを見つけ認め合いながら、一人一人の存在が生きる仲間づくりを考えていく。
- 思い通りにならない時も、別のやり方を考えたりやり直したりして自分でやり遂げるよう、子どもに応じた関わりをする。
- すぐに答えを出したり導いたりするのではなく、子ども自身が気付いたりおもしろいと感じることを受け止めたり共感したりする。

小学校教員が大切にすること

- 幼児期の自然を利用して遊んだ経験等を生かしたり、児童同士の意見交流の場を取り入れたりしながら、児童の探究心や好奇心を引き出すような状況をつくと共に、児童の「こうしてみたい」という願いをもたせるようにする。
- 児童の願いの実現に向けて、調べたり、試したりできる場（物的環境、時間、空間）を用意する。

- 学習に興味・関心をもち、自ら試したり本で調べたりしながら、じっくりと考える。
- 友達の発言を聞く中で、自分の考えとの違いに気付き、友達の発言のよさを認めて自分の考えに取り入れる。
- 学校探検などで学校にあるものや人の存在に気づくとともに、疑問に思ったことを自分なりに確かめようとする。

⑦自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付く、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切に思う気持ちをもって関わるようになる。

幼児期 年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期 一年生の入学当初
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- ・自然物や自然現象に心を動かし、いろいろな場面で使ったり、遊びの中に生かしたりしようとする。
- ・水や氷、日向や日陰など、同じものでも季節により変化するものがあることを感じ取ったり、変化に応じて生活や遊びを変えたりする。
- ・季節の変化を感じ、四季のあることを知ったり楽しんだりする。
- ・季節の草花や木の実などの自然の素材や、風、氷などの自然現象を遊びに取り入れて、面白がったり、工夫したりする中で、自然の不思議さを感じたり、感動したりできるようになる。
- ・身近な動物との触れ合いや世話をすることで、愛着を感じたり、分からないことを調べたりし、感動したり、時には死に接し、命あるものとして大切にできるようになる。
- ・植物の栽培を通じて、世話をすることで生長したり収穫したりする喜びを味わう経験や、台風や野鳥などで収穫ができなくなった経験などを通して、子どもなりに自然の偉大さを知ることができるようになる。

保育者が大切にしてきたこと

- ・身近な自然に積極的に関わり、自然物を集めたり、自然の移り変わりや美しさ、面白さなどを感じたりできるようにする。また、子どもたちの発見や考えを周りに広めたり、共感したり、保育者自身が感性豊かに関わる。
- ・季節の移り変わりに気付いたり、興味をもったりできるように、戸外で積極的に遊ぶなどの機会がもてるようにしていく。園内外の自然環境や作物の栽培などについて、場所の確認や知識を深めておく。
- ・子どもと共に動植物への出会いを楽しみ、もっとよく知ろうとする気持ちを大切にしていく。保育者自らも生き物などに愛着をもって関わる姿を見せていく。

- ・春の校庭などの身近な動植物に関心をもち、探したり関わったりする。
- ・花を育てる学習では、幼児期の経験を生かしながら植物の成長に合わせて世話の仕方を考え、親しみをもって世話を続ける。
- ・花の成長の様子を進んで観察し、気付いたことや育てる喜びを絵や文字で表現する。

小学校教員が大切にすること

- ・昆虫を捕まえたり、飼育したり植物の世話を続けたりする中で、「自分の〇〇」を育てているという意識を高め、大切に育てながら、生命の不思議さや尊さに気付くことができるようにする。

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

幼児期 年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期 一年生の入学当初
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- ・生活や遊び(砂場・積木・栽培物の収穫など)を通じて、自分たちに関係の深い数量、長短、高低、広さや速さ、図形に関心をもつ。
また、必要感をもって数えたり、比べたり、組み合わせたりする。
- ・日常生活の中で文字や数や表示などに関心をもち、書いたり数えたり計ったりなど適当な表現方法を知り、生活や遊びの場面で使ってみる。
- ・文字や数を使って表現できることを知り、手紙などを書いて、相手に伝わることのうれしさを感じ、意欲的に使ってみようとする。

保育者が大切にしてきたこと

- ・生活や遊びの中で、数量に親しむ経験を重ねていけるようにし、幼児なりに必要感をもって並べたり、比べたり、量ったりして、数量の感覚を豊かにしていく。
- ・買い物体験の中で、地域の方とやり取りしたり本物のお金に触れたりして、自分でお金を払う体験ができるようにしていく。
- ・一斉に教えたり導いたりするのではなく、園生活の中で、自然に文字や数量、筆記具(クレヨン、太マジック、色鉛筆)に触れられるような環境を整え、幼児なりの必要感をもって、伝える喜びや、楽しさ、伝わったという実感を味わえるようにしていく。また、子どもたちの問いには丁寧に対応する。

- ・幼児期に育まれた数に対する感覚を生かして、ものの数を数えたり、数の大小や数の合成を理解したりする。
- ・文字を使って自分の思いを伝えることができる喜びを感じながら、ひらがなの学習に関心をもって取り組む。

小学校教員が大切にすること

- ・幼児期の遊びや生活の中で、実際に物の数を数える経験や、積み木や空き箱などを組み合わせて、イメージを形づくる経験などから、そこで育まれた数・図形に対する感覚を大事にしながら学習を進めるようにする。
- ・遊びの中で看板や標識を作ったり、友達に手紙を書いて思いを伝えた経験を生かし、文字を学ぶことで、さまざまな人に思いを伝えることができるようになるという喜びを味わわせながらひらがな学習ができるようにする。

9 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

幼児期 年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期 一年生の入学当初
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- 相手の意見に耳を傾けたり、自分が言いたいことを理解してもらおうとしたり、お互いのよさを認め合って遊びを進めていくとする。
- 自分なりの言葉で思いや考えを相手に分かるように話したり、人の話を最後まで聞くこととして、その思いや考えに気付くことができる。

⑤遊びの途中で言い合いが始まると「どうしたの?」「あのね…」と自分の気持ちを一生懸命伝えている。いつの間にか友達もだんだんと集まってきた。

- 絵本や物語などに親しみ、興味をもって見たり聞いたり、想像したりする楽しさを味わうことを通して、その言葉のもつ意味の面白さを感じたり、想像の世界を友達と共有し言葉による表現を楽しんだりする。



保育者が大切にしてきたこと

- 言葉でうまく表現できない場合には、まず子どもの思いを保育者が受け止め、気持ちや考えを言葉にして返す援助を丁寧に行う。
- 言葉遊びを楽しむ中で、いろいろな言葉や表現方法を知ったり関心をもったりできるようにする。また、子どもの好きなお話を繰り返し読んだり言葉のやりとりを楽しんだりして、表現する活動を取り入れる。
- 子どもの思いや感じていることを言葉として引き出したりし、言葉で表現したり伝わるうれしさを感じられるようにする。

- 教師の読み聞かせを聞き、話の世界に浸る。
- 友達に対して自己紹介をしたり、友達の自己紹介を楽しく聞いたりする。
- 友達と互いに思いや考えを言葉で伝え合い、受け止めたり認め合ったりする。
- 自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする。

小学校教員が大切にすること

- 登校時の話や休みの日のできごと等、日頃から児童の話す言葉に共感的に耳を傾け、相手と思いを共有することのよさを実感できるようにする。
- 読み聞かせなど互いにイメージを共有しやすい活動を通して、児童なりの感想を出し合ったり、友達の感想を受けて応えたりする楽しさを味わう。
- 児童が言葉で伝えたい課題を設定し、相手に自分の思いが伝わった喜びを実感できるような活動を工夫する。

10 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

幼児期 年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期 一年生の入学当初
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにもちながら、楽しく表現する。
- 身の回りの出来事や自然現象に触れ、変化に気付いて感動したり喜んだりする。
- 絵本、詩、物語などを聞いて、表現したり言葉の面白さや美しさに気付いたりする。
- 音色の美しさを感じながら、歌ったり楽器の演奏を楽しんだりする。リズムやテンポなど、音楽の特徴を感じながら、のびのびと身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。
- 生活や遊びを通して感じたことや考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由に歌ったり、つくったり、演じて遊んだりする。
- 友達同士で表現し合うことで、様々な感じ方や表現の面白さに気付いたり、友達と一緒に表現する過程を楽しんだりする。

保育者が大切にしてきたこと

- 保育者も感性豊かに心を動かし、表現してみせる。また子どもとともに感じたり表現したりすることを楽しんでいく。
- 素材や教材を適材適所で生かせるように、教材研究をする。
- 一人一人の感じ方や表現の違いを尊重する。自分と違っていても、けなしたり笑ったりしないことや違いに気付き受け入れることを大切にする。
- お話を演じたり自分たちで劇に創り上げたりする経験では、子どもの表現と一緒に楽しみ、表現の楽しさややり遂げた満足感を共有できるようにする。

- 身の回りの出来事や自然現象の変化などに気付き、心が動いたことを、音楽や造形、身体等によって生き生きと表現する。
- 学校探検で行った場所や会った人のことを絵カードやクイズ、ジェスチャー、実際に行き見せながら紹介するなど思い思いの方法で友達に知らせる。
- 友達と一緒に絵本や紙芝居などを聞いたり読んだりしてイメージしたことを、言葉や動作で自分なりに表現する。

小学校教員が大切にすること

- 友達と一緒にリズムに合わせて体を動かす楽しさや、声をあわせて歌うことの心地よさを十分に味わえるようにする。
- 子どもの作品を教室の装飾に生かしたり、掲示したりして生活が豊かになることが感じられるようにする。
- 音楽や図工などの表現活動を行う際には、児童の生活や体験をきっかけにした表現活動を取り入れるなど、児童の意識の流れを大切にする。

①健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

幼児期 年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期 一年生の入学当初
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- ・体を動かす様々な活動に自分なりに目標をもって挑戦したり、困難なことにつまずいても気持ちを切り替えて乗り越えようとしていたりして、主体的に取り組む。
- ・衣服の着脱や、場や季節に応じた服装を自分で調整できるようになる。
- ・自分で排泄や始末ができ、和式のトイレも使えるようになる。
- ・危険を認知し周囲の安全に気をつけて行動する。自分たちでルールや遊び方を考えたり守ったりして遊ぶ。

- ・健康な生活リズムを通して、自分の健康に対する関心や安全についての構えを身に付け、自分の体を大切にできる気持ちをもつ。
- ・基本的な交通ルール(右側通行、信号の見方、横断歩道、道路の横断)が身に付くようになる。
- ・避難訓練などを通し、災害時や非常時に対する心構えや自分で自分の身を守ろうとすることができるようになる。
- ・自分の身の回りのことを(持ち物・片付け・整理整頓)を自分でしようとする。

- ・いろいろな食べ物に親しみ、好き嫌いなくみんなと一緒に楽しく食べることができる。
- ・野菜を育てたり、収穫・料理などを通して食べ物への関心をもち、栄養などにも気付くようになる。
- ・集団での生活の流れなどを予測して、準備や片付けも含め、自分たちの活動に、見通しをもって取り組む。
- ・病気の予防に関心をもち、体の不調を、身近な大人に知らせることができる。

保育者が大切にしてきたこと

- ・自分なりの目的を見つけ、取り組むことができるよう、一人一人の育ちや課題に合わせ関わる。
- ・遊びに使う遊具や用具を子どもたちが自分で出し入れできるように準備したり、かいっぱい体を動かす気持ちよさを楽しさを感じたりできるようにする。
- ・失敗してもまた取り組みやすいことや、繰り返し取り組むことでできるようになっていることを具体的に伝えていく。
- ・基本的な生活習慣では、個人差を考慮して保護者への啓発を行い、家庭の実態に応じた取り組みを考えていく。

- ・自分がやりたいことを自己決定し、意欲的に取り組んだり、達成感を味わったりする。
- ・運動遊び(体育)や休み時間などに思いきり体を動かして遊ぶ。
- ・次の時間の活動を考えて準備したり、時計を意識して活動したりするなど、見通しをもって行動する。
- ・体操服や水着の着替えなど、衣服の着脱が自分でできる。
- ・手洗い・うがい・汗拭きや食事、排泄などを自分で考えて行い、健康に気を付けて生活する。
- ・安全に気を付けて登下校する。

小学校教員が大切にすること

- ・活動の中で、児童が道具や材料を選ぶなど自己選択・自己決定する場面を多く設定し、主体的な学びにつながるように留意する。
- ・教師が児童に指示を出すばかりではなく、児童が幼児期の経験を生かして自ら考え、判断し、行動することができるように支援する。(「どうしたらいいと思う?」「園ではどうしてた?」と尋ねる。)

②自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

幼児期 年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期 一年生の入学当初
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- ・生活の流れを予測したり、周りの状況を感じたりして、自分でしなければならないことを自覚して行う。
- ・自分も友達も大切にできるようになる。
- ・小学校生活への期待をもって、意欲的に遊びや行事に取り組むことができるようになる。
- ・日直活動を一人でやり朝の会や帰りの会を進めるなど達成感を感じる。
- ・異年齢の友達の世話や手伝いははりきって行う。

- ・自分のことは自分でやろうとし、できないことは先生や友達の助けを借りて、自分でやる。保育者の励ましや促しがほしい時もある。

- ・いろいろな活動や遊びにおいて失敗してもあきらめずに自分の力で最後までやり遂げ、満足感や達成感をもつようになる。

保育者が大切にしてきたこと

- ・自分なりの課題を見つけて繰り返し挑戦したり、最後まで頑張ろうとする姿を認め、充実感や満足感が味わえるようにする。
- ・小学校生活に期待が高まる反面、不安をもつ子どももいる。生活面や友達への関わり、いろいろな運動遊び、用具の使い方など一人一人の状況を把握し、具体的に関わる中で自信をつけていく。
- ・異年齢児と接する中で、自分自身の成長を感じられたり、人の役に立つ喜びを感じられたりするなど自信をもって行動できるようにしていく。

- ・担当する当番や係活動の仕事に、活動する時間帯を考えたり、活動の仕方を工夫したりしながら取り組む。
- ・自分の意見を先生や友達に進んで発表する。
- ・分からないことや難しいことがあれば先生や友達に聞きながら活動する。
- ・生活や学習での課題を自分の課題として受け止め、最後まで諦めずに粘り強く行動しようと努力する。

小学校教員が大切にすること

- ・児童が幼児期の経験を生かして活動できるように、児童にこれまでの経験を尋ねたり、自力で活動するように任せたりする場面を意識して取り入れる。
- ・児童が自分たちで工夫して取り組んでいる姿を受け止め、言葉を掛けたり、他の児童に広げたりする。

③協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

幼児期
年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期
一年生の入学当初
(自覚的な学び)

子どもの姿

- いろいろな友達と積極的に関わり、友達の思いや考えなどを感じながら行動する。
- 友達と協力し、必要な時に集団行動が自分からとれるようになる。
- 友達と一緒に遊びを考えたり、ルールをつくって楽しく活動できるようになる。

- 相手に分かるように伝えたり、相手の気持ちを察して自分の思いの出し方を考えたり、我慢したり、葛藤したり、折り合いを付けるなど気持ちを切り替えたりしながら、分かり合う。
- 自己主張がぶつかりけんかになったり、思いや考えが違っていると感じたりする経験をしながら、だんだんと共通の目的に向かって、友達と考えや思いを出し合い遊びを進めていこうとする。

- クラスの様々な仲間との関わりを通して互いのよさを分かち合い、楽しみながら一緒に遊びを進めていく。
- クラスみんなで共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したりして、実現に向けて力を発揮しやり遂げる。

保育者が大切にしてきたこと

- 自分の考えを十分に出したり、友達の考えを聞いたりしながら遊びを進めていけるように見守ったり投げかけたりする。またいざこざが起きた時は、自分たちで考え解決しようとする過程を大切にしていく。
- 一人一人が力を発揮して目的をもち、実現できるように、一緒に考えたり、クラスで気持ちを合わせていく機会をもち、意欲や自信へとつなげていく。
- 友達の得意なことや知っていることを学級で認め、遊びや生活の中で自信をもって力を発揮できるようにする。

- 少人数グループで自分の意見を発表し合ったり、話し合って意見をまとめたりする。
- 同じ目的に向かってグループや学級全体で取り組む中で、互いのよさに気づき、仲間と一緒に活動することの楽しさを感じる。

小学校教員が大切にすること

- 4月当初から、2人組だけでなく、4人程度のグループで話し合う活動（ゲームなど）を取り入れるようにする。
- 児童の思いや考えを共有する場を設定し、自分たちで実現に向けて取り組むことで充実感がもてるようにする。

④道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

幼児期
年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期
一年生の入学当初
(自覚的な学び)

子どもの姿

- 相手も自分も気持ちよく過ごすために、してよいことと悪いこととの区別などを考えて行動する。
- 仲間意識ができ、一緒に過ごす中で、友達のよさに気付く。

- 他者の気持ちに共感したり、相手の立場から自分の行動を振り返ったりする経験を通して、相手の気持ちを大切に考えながら行動する。
- 友達の気持ちに気付いたり、折り合いを付けたりし、自分の気持ちを調整できるようになる。

- クラスのみんなと心地よく過ごしたり、より遊びを楽しむためのきまりがあることが分かり、守ろうとしたりする。きまりを必要に応じてつくり替えたり、新たにつくったりする。
- みんなで使うものに愛着をもち、大事に扱う。

保育者が大切にしてきたこと

- 日々の様々な出来事について一人一人の気持ちに添いながら、場面や機会をとらえて内容に応じて周囲の仲間に伝えたり、クラスで考えたりしていく。
- 子ども同士のいいところ探しにつながるように、保育者も子どものよさを言葉にして伝えていき、子ども同士のつながりがさらに深まるような援助をする。
- 友達やクラス全体で協働する楽しさや、充実感を味わえるような機会をつくり、クラスの一人一人が大切な仲間であり、かけがえのない存在であると感じ取れるようにする。

- 友達と過ごす中で、自分の言動を振り返り、自分の気持ちや行動を調整する。
- 友達と意見の違いがあっても、相手の気持ちを考え理解しようとする。
- 学校のきまりやルールは、みんなが楽しい学校生活を送るために必要であることを理解し、自分たちできまりを考えることができる。また、そのきまりを守ろうとする。

小学校教員が大切にすること

- 「～しましょう」「～はしません」と教師が一方向的に指導するのではなく、幼児期の経験を引き出ししながら、「どうすればいいのか」「どのようなルールが必要か」ということを話し合い、きまりをつくっていくようにする。

⑤ 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

幼児期 年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期 一年生の入学当初
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- 小学生・中学生、地域の様々な人々に、自分からも親しみの気持ちをもって接する。
- 親や祖父母など家族から愛されていることに気付き、家族を大切にしようとする気持ちをもつ。
- 機会を捉えて外国の人や文化に触れあい、親しみや関心をもつようになる。

- 地域のお店に買い物に出かけたり、一人暮らしのお年寄りに手紙を書いたりし、関係の深い人々とのふれあいの中で、自分が役に立つ喜びを感じる。
- 友達同士で目的に必要な情報を伝え合ったり、活用したりする。

- 四季折々の地域の伝統的な行事に触れ、自分たちの住む地域に一層親しみを覚える。
- 公共の施設を訪問したり、利用したりして、自分にとって関係の深い場であることが分かる。

保育者が大切にしてきたこと

- 普段から地域や地域の方との交流を大切に、園にとって地域が重要な役割をもっていることを知ってもらい、様々な情報や機会を得られるようにしていく。
- 地域の方が園や子どもたちの存在を大切に思ってくれることなどを折に触れて子どもたちに伝え、喜びとして感じられるようにする。
- 就学時健診や小学生との交流などを通して、小学校生活を身近に感じ、期待をもてるようにする。
- 一人一人が自信と誇りをもって就学を迎えられるように、不安を感じている子どもには特に配慮していく。

- 登下校を見守ってくれている地域の方に、元氣よく挨拶をしたり感謝の気持ちを伝えたりする。
- 学習活動の中で必要な情報を家族から聞いたり本で調べたりして集め、その情報を伝え合う。
- 縦割活動や行事を通して出会った上級生と休み時間に触れ合ったり、一緒に掃除などの活動を喜んでする。

小学校教員が大切にすること

- 子どもたちの安全や学校生活を見守ってくれている地域の方との出会いを仕組み、繰り返し関わることで、児童の身近な地域の方への思いや愛着が深められるようにする。
- 「がっこうたんけん」等で校長先生・教頭先生・養護教諭など様々な先生と関わったり、話を聞く機会などがもてるようにする。

資料

10の姿共有シート
記載例2

⑥ 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

幼児期 年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期 一年生の入学当初
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- 自分の考えを出したり、友達の思いを聞いたりして、より遊びが楽しくなるように、必要な物や場、役割などを考えて遊ぶようになる。
- 今までの経験を生かして見通しをもったり、自分なりのこだわりをもったりして遊びを進めるようになる。

- 身近な物や用具などの使い方を知り、性質を知って、イメージを膨らませたり、いろいろな予想をしたりし、楽しみながら遊びに取り入れる。

- 友達の考えに触れる中で、自分の思いや考えを考え直したり新しい考えを生み出そうとする。

保育者が大切にしてきたこと

- 自分たちで遊びの計画を立てたり、目的をもって取り組めるよう、必要な用具や素材を十分に準備し、じっくり関わる時間や空間を大切に、子どもたちで探したりして、イメージに合った環境をつくっていく。
- 自分の考えを十分にしたり、友達の考えを聞こうとしたり、お互いのよさを見つけ認め合いながら、一人一人の存在が生きる仲間づくりを考えていく。
- 思い通りにならない時も、別のやり方を考えたりやり直したりして自分でやり遂げるよう、子どもに応じた関わりをする。
- すぐに答えを出したり導いたりするのではなく、子ども自身が気付いたりおもしろいと感じることを受け止めたり共感したりする。

- 学習に興味関心をもち、自ら試したり本で調べたりしながら、じっくりと考える。
- 友達の発言を聞く中で、自分の考えとの違いに気付き、友達の発言のよさを認めて自分の考えに取り入れる。
- 植物や野菜を育てる活動の中では、どうすれば植物や野菜が大きく生長するかを自分なりに考えて世話が続け、植物や野菜の生長の様子から自分の世話を振り返りながら、よりよい世話の仕方を考える。

小学校教員が大切にすること

- 幼児期の経験を生かしたり、児童同士の意見交流の場を取り入れたりしながら、児童の探究心や好奇心を引き出すような状況をつくるとともに、児童の「こうしてみたい」という願いをもたせるようにする。
- 「次はこうしよう」など、児童が試行錯誤しながら見通しがもてるようにする。

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にしたい気持ちをもって関わるようになる。

⑨言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

幼児期
年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期
一年生の入学当初
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- 相手の意見に耳を傾けたり、自分が言いたいことを理解してもらおうとしたり、お互いのよさを認め合って遊びを進めていくとする。

- 自分なりの言葉で思いや考えを相手に分かるように話したり、人の話を最後まで聞こうとしたりして、その思いや考えに気付くことができる。

- 絵本や物語などに親しみ、興味をもって見たり聞いたり、想像したりする楽しさを味わうことを通して、その言葉のもつ意味の面白さを感じたり、想像の世界を友達と共有し言葉による表現を楽しんだりする。

保育者が大切にしてきたこと

- 言葉でうまく表現できない場合には、まず子どもの思いを保育者が受け止め、気持ちや考えを言葉にして返す援助を丁寧に行う。
- 言葉遊びを楽しむ中で、いろいろな言葉や表現方法を知ったり関心をもったりできるようにする。また、子どもの好きなお話を繰り返し読んだり言葉のやりとりを楽しんだりして、表現する活動を取り入れる。
- 子どもの思いや感じていることを言葉として引き出したりし、言葉で表現したり伝わるうれしさを感じられるようにする。

- 幼児期に育まれた数に対する感覚を生かして、ものの数を数えたり、数の大小や数の合成・分解を理解したりする。
- 文字を使って自分の思いを伝えることができる喜びを感じながら、ひらがなの学習に関心をもって取り組む。

小学校教員が大切にすること

- 幼児期の遊びや活の中で、児童は実際に物の数を数える経験をしてきている。そこで育まれた数に対する感覚を大事にしながら学習を進めるようにする。
- 文字を学ぶことで、人に思いを伝えることができるようになるという喜びを共有しながらひらがな学習を行う。

資料

10の姿共有シート
記載例2

⑩豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

幼児期
年長の後半
(学びの芽生え)

入学

児童期
一年生の入学当初
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにもちながら、楽しく表現する。
- 身の回りの出来事や自然現象に触れ、変化に気づいて感動したり喜んだりする。
- 絵本、詩、物語などを聞いて表現したり言葉の面白さや美しさに気づく。

- 音色の美しさを感じながら、歌ったり楽器の演奏を楽しんだりする。リズムやテンポなど、音楽の特徴を感じながら、のびのびと身体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。
- 生活や遊びを通して感じたことや考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったり、演じて遊んだりする。

- 友達同士で表現し合うことで、様々な感じ方や表現の面白さに気付いたり、友達と一緒に表現する過程を楽しんだりする。

保育者が大切にしてきたこと

- 保育者も感性豊かに心を動かし、表現してみせる。また子どもとともに感じたり表現したりすることを楽しんでいる。
- 素材や教材を適材適所で生かせるように、教材研究をする。
- 一人一人の感じ方や表現の違いを尊重する。自分と違っていても、けなしたり笑ったりしないことや違いに気づき受け入れることを大切にする。
- お話を演じたり自分たちで劇に創り上げたりする経験では、子どもの表現と一緒に楽しみ、表現の楽しさややり遂げた満足感を共有できるようにする。

- 身の回りの出来事や自然現象の変化などに気付き、心が動いたことを音楽や造形、身体等によって生き生きと表現する。

- 友達同士で表現を工夫しながら楽しく活動し、互いの表現を認め合い、自分の表現に取り入れれたり、新たな表現を考えたりする。

小学校教員が大切にすること

- 音楽や図工などの表現活動を行う際には、児童の生活や体験をきっかけにして表現活動につなぐなど、児童の意識の流れを大切にする。

スタートカリキュラム 単元配列表（例）

4月	第1週	第2週	第3週	第4週
算数		数字の学習		
	なかまをつくろう	なかまづくり くらべよう 10までのかず かずならべ	0というかず	
国語	みんなのせかい	ひらがなの学習 じをかこう あいうえおのうた		
	よろしくね	ほんがたくさん はきはきあいさつ		
生活	なかよいっばいだいさくせん！ すたあとぶつく がっこうだいすき きれいにさいてね			
音楽		うたでなかよしになろう うたでさんぽ ぞうさんのさんぽ てとてであいさつ ひらいたひらいた		
図工	すきなもののなあに？ すなやつちでなかよし	すなやつちとなかよし ねんどで	おひさまにここにこ	
体育	ゆうぐ・てつぼうあそび（固定施設を使った運動遊び） なかよくあそぼう（体ほぐしの運動・いろいろなならびかた）			
道徳		たのしいがっこう	あいさつ	あとかたづけ
学活	なかよいっばい （なかまづくり なかよしゲーム） みんなでかえろう	楽しい給食 （給食の準備）		
行事	入学式	2年生・6年生と対面式 こんにちは1ねんせいのかい		交通安全教室、発育測定等

スタートカリキュラム 学習の分類

一人ひとりが安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとした学習



♥なかよしタイム

合科的・関連的な指導による生活科を中心とした学習



★いきいきタイム

教科等を中心とした学習



◆ぐんぐんタイム

スタートカリキュラム編成のポイント

時間の設定の工夫

○朝の会から1時間目にかけて、幼児期に親しんできた遊びや活動を取り入れたり、友達と仲良く交流する活動を行ったりすることで、生き生きと楽しい気持ちで学校生活を始めることができます。(♥なかよしタイム)

週のねらいの設定

○1週間ごとにねらいをもって取り組んでいきましょう。
○身近な友達や先生との関わりから集団づくりへ、教室から学校全体へ、主体的に学び自分らしさを発揮できる活動へと、徐々にステップアップしていくねらいを定めることが考えられます。

時間割の工夫

○生活科を核とした合科的・関連的な指導を取り入れることで、単元のストーリー性を重視し子どもの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めることができます。

幼児期の経験を生かす

○子どもに即した柔軟な計画を心がけ、カリキュラムを編成していくことが大切です。
「5歳児後半の年間計画」や「10の姿共有シート」等を活用して、幼児期の経験や学びを生かした授業を構想していきましょう。

登校時の環境 ①

登校したら、始業まで園生活とあまり変わらない環境を設定する。そうすることで、小学校に入学して少し不安になっている子どもも、園で親しんだ遊びで落ち着いたり、座卓に顔見知りの友達と座って安心したりできる。(事前にどんな遊びに親しんでいたか、各園に聞いておくとうい)



- ・折り紙
- ・お絵かき
- ・ぬり絵 等

なかよしタイム

第1週目は、朝の会から『なかよしタイム』を設定し、学年合同やクラスで楽しい活動を取り入れる。ここで、園でなじんだ活動を取り入れたり、知っている友達の顔を見たりすることで、安心することができる。

1年生に関わりの深い先生の紹介もしながら、歌やゲームを一緒にして過ごし、顔を知って安心できるようにする。(事前に子どもたちが好きな遊びや歌、親しんだゲームなどを各園に聞いておき、なかよしタイムに生かせるようにしておくとうい)



歌やゲームで体を動かす授業では、体育館、オープンスペース等を使用することで、活動範囲が広がるようにし、思いきり体を動かせるようにするとよい。

グループ (図画工作)

幼児期と同じように、友達と話をしながら活動できるよう机をグループの形にする。

絵を描きながら、自分の思いを話したり、何を描こうか迷っている子は友達の作品を参考にしたりすることができる。

また、描き終わった子は、グループ以外の友達の絵を見に行くことで、感想を言ったり、自分の絵に描き加えたいものを見つけたりする。



スタートカリキュラム 4月第1週

【第1週】ともだちやせんせいとなかよしになろう

日	1日目				2日目				
行事	入学式								
登校して					登校したら、ランドセルをロッカーに入れて、読書・お絵描き・折り紙等をして待つ。(座卓を準備するなど、環境を設定しておく)				
朝の会									
1					生活教室				
					学活	【学:小学生になったよ】 ・手遊び「おちたおちた」 ・先生の紹介 (各担任・支援員)			
					音楽	【音:うたでなかよしになろう】 ・歌「せんせいとおともだち」 ・歌「さんぽ」			
2					生活	【生:がっこうだいすき】 ・トイレの使い方(大型絵本) ・トイレたんけん			
					学活	【小学生になったよ】 ・登校したらどうするの ・ランドセルなどの片付け方や提出物の出し方など ・教室の道具の使い方			
20分									
3					図工	【どんどんかくのはたのしいな】 ・すきなものをどんどん描こう			
					学活	【小学生になったよ】 ・手紙のたたみ方 ・帰りの準備の仕方			
4					1年集団下校				
給食									
昼休み									
掃除									
5	○明日学校に来たら、ロッカーにランドセルを入れて、読書をしたり、絵を描いたり、折り紙をしたりして過ごしてよいことを伝えておく								
授業 時数	教科等	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	
	前 週								
	実 施	3・1/3		2/3		3・2/3	1・1/3	1	
	累 計	3・1/3		2/3		3・2/3	1・1/3	1	

記載例

♥なかよしタイム ★いきいきタイム ◆ぐんぐんタイム

○1年生になった喜びや新しい出会いのうれしさを感じ、楽しく安心して過ごす。

3日目					4日目			5日目					
対面式								聴力検査					
登校したら、朝の活動(ランドセルの片付けまで)を、自分でする。 準備ができれば、読書、自由帳、折り紙などをする。													
なかよしタイム(生活科室・体育館に集合)													
体育館					体育館			生活科室					
学活	【学:小学生になったよ】 ・手遊び「おちたおちた」 ・先生の紹介 (校長先生・教頭先生)				学活	【学:小学生になったよ】 ・手遊び「やおやさん」 ・先生の紹介 (養護教諭・栄養士)		音楽	【音:うたでなかよしになろう】 ・歌「校歌」 ・歌「夢をかなえてドラえもん」				
	音楽	【音:うたでなかよしになろう】 ・歌「せんせいとおともだち」 ・ゲーム「じゃんけん列車」 ・歌「さんぽ」				音楽	【音:うたでなかよしになろう】 ・歌「せんせいとおともだち」 ・ゲーム 「もうじゅう狩りに行こうよ」 ・歌「校歌」		体育	【体:からだをうごかさう】 ・ダンス「ラーメン体操」 ・氷おに			
		生活	【生:がっこうだいすき】 ・お兄さん、お姉さんに会う 準備(対面式に向けて)				国語			【国:本がいっぱい】 ・紙芝居 ・読み聞かせ (次の活動に生かせる、食べ物や動物、乗り物などの本) ・好きなものになかな			
行事	【行事】 対面式(全校) ・歌発表「さんぽ」				生活	【生:がっこうだいすき】 ・校庭を歩いてみよう		国語	【国:本がいっぱい】 ・紙芝居 ・読み聞かせ (次の活動に生かせる、食べ物や動物、乗り物などの本) ・好きなものになかな				
	生活	【生:がっこうだいすき】 ・校舎内を歩いてみよう ・職員室・保健室・校長室の場所を知り、入り方を知ろう ・廊下の歩き方を知ろう				生活	【生:がっこうだいすき】 ・校庭を歩いてみよう		生活	【生:がっこうだいすき】★ 【図:好きなものを描こう】 ・名刺づくり ・好きなものも描いてみよう (カードにたくさん描いてみる)			
学活		【学:小学生になったよ】 ・手紙のたたみ方 ・帰りの準備の仕方					学活	【学:小学生になったよ】 ・園での昼食を思い出しながら、学校ではどんなことをすればよいか、話してみよう ・エプロンを着て、当番活動をしてみよう ・待つ時はどうするのかな		学活	【学:小学生になったよ】 ・園での昼食を思い出しながら、学校ではどんなことをすればよいか、話してみよう ・エプロンを着て、当番活動をしてみよう ・待つ時はどうするのかな		
	給	1年集団下校				給		クラスの花壇の草ひき			給	【小学生になったよ】 ～楽しい給食～	
昼							昼	クラスの花壇の草ひき		昼		クラスの花壇の草ひき	
	掃					掃		クラスの花壇の草ひき			掃	クラスの花壇の草ひき	
国語		【はきはき あいさつ】 ・元気なあいさつ ・元気な返事					国語	【はきはき あいさつ】 ・元気なあいさつ ・元気な返事		生活		【がっこうだいすき】 自分のことを話してみよう	
	学活	【小学生になったよ】 帰りの準備をしよう				学活		【小学生になったよ】 帰りの準備をしよう			学活	【小学生になったよ】 帰りの準備をしよう	
家庭		体育	外国語	総合	道徳		学活	小計	児童会	行事		総計	
		1			0	4	15	0	2	17			
		1			0	4	15	0	2	17			

登校時の環境 2

絵や写真等を使いながら分かりやすく簡潔に児童が理解できるようにすることで、活動時間を保障するようにする。



読み聞かせ

保育園でのスタイルと同じように、前に出て聞きたい児童は絵本の近くに集まり、自分の席からの方がよい児童は、椅子に座って聞くようにし、自分で選べるようにしてみることもできる。



保育園



小学校

給食当番

当番活動は各園で経験してきており、配膳を経験している園もある。時間はかかるが、給食当番の経験をできるようにすることで、小学生になった喜びも味わうことができる。

給食当番や配膳については、長くないようにポイントを押さえて説明する。

〈A 先生の例〉

保育園でどのように給食を用意していたかを聞き、小学校とのやり方の違いをおさえて子どもたちに話した。

保育園	小学校
●エプロンなし	●エプロン使用
●ごはんは、持参。おかずは、自分で入れる	●ごはん・おかずは、給食当番が配膳
●食べるグループで「いただきます」食べ終わった子から「ごちそうさま」	●全員そろって、「いただきます」「ごちそうさま」

★初めての経験

エプロンの使用…写真を用いて視覚的に提示した。

食事のあいさつ…保育園と違って全員で挨拶することを説明した。

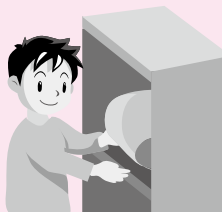
★経験を生かして

配膳…自分たちで行えるよう、やり方の違いを伝えた。

朝の活動の流れ

第2週から、登校したら朝の準備をして、好きな時間を過ごし、チャイムが鳴ったら朝読書（読み聞かせ）、朝の会、1時間目から『なかよしタイム』という、決まった流れをつくる。

毎朝、同じパターンで始めることで、安心して学校生活に慣れていくことができる。



授業時刻

園では、ゆとりある時間の中で活動をしており、休み時間の終わりを意識しにくいことがある。時計の掲示物で視覚的に捉えられるようにしたり、みんなが揃うまで手遊びや休み時間の出来事を話すようにしたりして、時間通りに戻ってきた子どもが楽しい時間をもてるよう配慮していく。



6年生との交流

縦割り掃除が始まって、不安にならないように事前に縦割り班の6年生と顔合わせをし、一緒に遊んだり活動したりする時間を設定する。



縦割り掃除

園でも掃除をしているので、高学年に優しく教えてもらいながら、できることから始めていくことで、小学生の一員であることを実感できる。

また2年生以上の掃除をがんばる姿を見たり、話をしたりして、他学年と関わる機会にする。



宿題

宿題を少しずつ出していく。子どもたちに合わせて、無理なく、楽しんで取り組めるもの、達成感のあるものから始める。

スタートカリキュラム 4月第2週

【第2週】ともだちをつくって、いっぱいあそぼう

日	6日目				7日目				
行事									
登校して	登校したら、朝の活動(ランドセルの片付けまで)を								
朝自習									
朝の会	1. 朝の挨拶								
1	生活科室				生活科室				
	音楽	【音：うたでなかよしになろう】 ・歌「校歌」「ひらいたひらいた」 ・手遊び「おちたおちた」			音楽	【音：うたでなかよしになろう】 ・歌「校歌」「ちょうちょ」「ひらいたひらいた」			
	体育	【体：からだをうごかそう】 ・ダンス「ラーメン体操」 ・ダンス「夢をかなえてドラえもん」			体育	【体：からだをうごかそう】 ・ダンス「ラーメン体操」 ・ダンス「夢をかなえてドラえもん」			
	生活	【生：がっこうだいすき】 ・名刺の交換			国語	【国：ほんがたくさん】 ・大型絵本や紙芝居			
2	算数	【なかまづくりとかす】 ・もらった名刺、仲間分けをしてみよう			算数	【なかまづくりとかす】 ・グループになって6年生と遊ぼう			
					生活	【がっこうだいすき】 ・縦割り班の6年生と顔合わせ ・6年生と一緒に遊ぼう			
20分									
3	道徳	【たのしいがっこう】 ・学校に関わる人に関心をもとう			国語	【国：みんなのせかい】 ・挿絵を見て、通学路や校庭の様子を思い浮かべ、春探しに興味をもつ			
					生活	【生：がっこうだいすき】 ・校庭で、春をさがす ・春風を感じたり、草花で遊んだりする ・見つけたものを絵に表したり、色塗りをしたりする			
4	国語	【みんなのせかい】							
	学活	【小学生になったよ】 ～楽しい給食～			学活	【小学生になったよ】 ～楽しい給食～			
給食	給 食								
昼休み									
掃除	クラスの花壇の草引き				縦割り掃除				
5	国語	【じをかこう】 『く』 ・『く』の付く言葉探し ・『く』の書き方			生活	【がっこうだいすき】 ・掃除でどんなことしたのかな ・掃除から教室に戻ったら			
					国語	【おはなししよう】 ・掃除のことを話そう ・『つ』の付く言葉探し ・『つ』の書き方			
授業 時数	教科等	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	
	前 週	3・1/3		2/3		3・2/3	1・1/3	1	
	実 施	7・2/3		2		4	2	2・1/3	
	累 計	11		2・2/3		7・2/3	3・1/3	3・1/3	

記載例

♥なかよしタイム ★いきいきタイム ◆ぐんぐんタイム

○ 友達や先生と一緒に仲良く過ごすことができる。

8日目				9日目				10日目			
身体測定											
自分でする。準備ができたら、読書、自由帳、折り紙などをする。											
読み聞かせ(紙芝居・絵本)をする											
2. 元気調べ(健康観察)						3. 先生の話					
なかよしタイム(生活科室・体育館に集合)											
生活科室				体育館				生活科室			
音楽	【音:うたでなかよしになろう】 ・歌「校歌」「ちょうちょ」 「おちゃらか」			音楽	【音:うたでなかよしになろう】 ・歌「校歌」 「おちゃらか」			音楽	【音:うたでなかよしになろう】 ・歌「校歌」 「なべなべそこぬけ」		
体育	【体:からだをうごかそう】 ・ダンス 「夢をかなえてドラえもん」 ・ゲーム「氷おに」			体育	【体:からだをうごかそう】 ・ダンス 「夢をかなえてドラえもん」 ・ゲーム「バナナおに」			体育	【体:からだをうごかそう】 ・「ラジオ体操」 ・ダンス「夢をかなえてドラえもん」		
国語	【国:ほんがたくさん】 ・大型絵本や紙芝居			国語	【国:ほんがたくさん】 ・大型絵本や紙芝居			生活	【生:がっこうだいすき】 ・もう一度学校で行ってみたい場所について話し合う		
行事	身体測定			体育	【からだをうごかそう】 ・体操服に着替えよう ・ならびっこ ・おにあそび ・かけっこ・リレー			書写	【書:なまえをかこう】 ・名刺に自分の名前を書こう		
	縦割り班の6年生と遊ぼう			図工	【図:つちやすとなかよし】 ・砂場で利用して感触を楽しんだり、試しながら作ったりする				学活	【学:がっこうのきまり】 ・廊下の歩き方や、職員室などへの入り方を考えよう	
国語	【ほんがたくさん】 ・読み聞かせ ・図書室ではどのように過ごしたらよいかを考える ・図書室で読みたい本を読む			生活	【生:がっこうだいすき】 ・砂場で遊んだことをみんなに伝えよう			生活	【生:がっこうだいすき】		
算数	【なかまづくりとかす】			国語	【じをかこう】 『い』 ・『い』の付く言葉探し ・『い』の書き方			国語	【国:よろしくね】 ・学校内を探検しよう ・先生に出会ったら、名前を言ったり、名刺を渡したりして、お話ししてみよう ・見つけたことや気付いたことを伝え合おう		
学活	【小学生になったよ】 ～楽しい給食～			学活	【小学生になったよ】 ～楽しい給食～			学活	【小学生になったよ】 ～楽しい給食～		
給食											
縦割り掃除				縦割り掃除				縦割り掃除			
学活	【当番をしてみたいな】 ・どんなことをしたらいいのかな。 ・だれがするのかな			国語	【あいうえおのうた】			図工	【先生あのね】 学校たんけんをして、見つけたものや楽しかったことを絵に描こう		
図工	当番の名札を作ろう										
家庭	体育	外国語	総合	道徳	学活	小計	児童会	行事	総合		
	1			0	4	15	0	2	17		
	2・1/3			1	2・2/3	24	0	1	25		
	3・1/3			1	6・2/3	39	0	3	42		

運動会に向けて

春に運動会を予定している場合は、『なかよしタイム』に内容を少しずつ取り入れていく。そうすることで、無理なく運動会への取組が進められる。

〈表現・ダンス〉

始める数日前に曲に触れておく（みんなで歌ったり、休み時間や給食時間などに曲をかけるなど）と、よりスムーズに活動に入ることができる。

当番活動

子どもたちが、黒板を消したり、本棚を片付けたり、花瓶の花の水替えをしたりと、クラスのために、いろいろなことに気付いて自主的に活動することが多くなってくると、黒板消しや花瓶などの取り扱いになったり、したい気持ちはあるのに大人数で行動に移せない子どももでてきたりする。その時は、みんなでどうしたらよいか話し合う時間をとる。

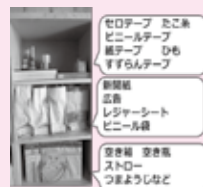
園でも当番活動をしているので、順番にしたり、グループを決めたりして、みんなが気持ちよく活動できる方法を考える。

この時間に設定しているが、子どもたちの姿を見ながら、ちょうどいいときに取り組むようにする。

教室環境

小学校になると45分の授業になるため、活動を続けたくても、気持ちの切り替えをしていかなければいけない。そのような子どもの思いが休み時間等で、満足できるよう配慮する。例えば、授業後も作成したい気持ちがある場合に作成できるよう、材料をかごに入れ、しばらく教室に置くようにする。

児童が材料を自己選択できるよう、教室の決まった場所に決まった物を置くような環境にするとよい。



資料

スタートカリキュラム 記載例

ねらい

- 仲のよい友達と過ごして安心したり、新しい友達と一緒に歌やゲームを楽しみながら仲よくなったりする。
- 担任や担任以外の先生と一緒に楽しむ中で、先生が安心できる存在であることを知る。
- トイレの使い方や場所をみんなで共有する。

事前準備

- ・子ども達が卒園前に親しんでいた手遊びや歌・ゲームなどを各園に聞いておき、子どもたちが親しみや安心感をもって参加できるようにする。

準備物

- ・各園で親しんでいた歌やゲームなどの音源
- ・ピアノやキーボード

活動の流れ

教師の関わり

- あいさつ
 - ・元気よくあいさつをする
 - ・元気調べ（健康観察）をする

- 朝のあいさつをしたり、あいさつの歌を歌ったりして、笑顔でスタートができるようにする。

- 手遊び
 - ・「おちたおちた」

- それぞれの園で親しんでいた手遊びを入れる。
- リラックスして楽しめるように、活動的なものやゲーム性のあるものにするのもよい。（雰囲気を見て選択する）

- 先生の紹介（1年団）
 - ・1年1組・2組担任
 - ・1年支援学級担任
 - ・1年支援員

- 各先生の自己紹介では、好きな食べ物や色等、子ども同士の自己紹介につなげていけるような内容にするとよい。

- 歌
 - 『せんせいとおともだち』
 - 『ちょうちょ』
 - 『さんぽ』

- 先生と歌いながら握手をして、親しみがもてるようにする。（握手をしたくない子どもには無理にさせないようにする）
- 季節の歌や園で親しんだ歌を歌う。
- 『さんぽ』等は、歩きながら体を動かしながら歌うのもよい。

- ゲーム『じゃんけん列車』

- 教師も参加し、消極的な子どもに声をかけてみんなが楽しめるように配慮する。

- トイレの使い方
（手遊び：5本指の拍手）

- ゲーム後でも集中して聞けるように、読む前に手遊びなどをして落ち着いた雰囲気をつくるとよい。

- ・大型絵本
「がっこうでトイレにいけるかな」
- ・実際にトイレに行ってみる
 - 学年トイレ
 - 体育館トイレ
 - 外トイレ 等

- 大型絵本や紙芝居などを利用して、トイレ（和式・洋式）の使い方を共通理解する。
- 小グループに分かれ、実際によく使うと思われるトイレに行き確認する。
- 一日入学や交流の中で、学校のトイレを使ったことのある子どもがいたら、話を聞いたり紹介したりする。

実践例
2

【生活科】大単元 **「がっこうだいすき」** (30 時間)
小単元「2 ねんせいと がっこうたんけん」(3 時間)



実践のポイント

新入児の学校生活への円滑な接続を図るため、生活科「がっこうだいすき」を中核とした合科的な学習を進める。幼児期の遊びや生活の経験を踏まえ、児童の思いや願いから活動を組織しその実現に向けた活動にストーリー性をもたせ、ゆったりとした時間の中で進める。また、活動を通して、2年生も自分の成長に気付いたり、思いやりの気持ちを高めたりすることができるようにする。

ねらい

- ・2年生と一緒に楽しく学校を回り、学校の施設や自然、いろいろな仕事をしている人がいることに気付くことができるようにする。

- ・学級活動 なかよしタイム 1 時間
- ・生活
「2ねんせいと がっこう たんけん」1時間+1/3 時間
「みつけたことや きづいたことをしょうかいしよう」1/3 時間
- ・国語「みつけたよ」1/3 時間

主な学習活動等

教師の関わり

1 学級活動なかよしタイム

「2ねんせいとなかよくなろう」(1 時間)

- (1) かもつれっしやをしったり、校歌を歌ったりする。
- (2) 学校探検に行くペアやグループでよろしくね
- (3) 2年生からのクイズ

- 2年生と楽しく過ごし、安心して学校探検に出発できるようにする。
- 2年生から学校のいくつかの場所や人を選んでもらい、クイズで紹介してもらう。(事前に、どの場所がいいか誰を選ぶか2年生に話し合ってもらおう。)

学校にはまだ知らない人や場所があることに気付き、2年生と探検に行ってみたい思いをもてるようにする。

2 生活

「2 ねんせいとがっこうたんけん」(1 時間 +1/3 時間)

- (1) 自分の行ってみたい場所や、会ってみたい人を2年生に伝える
- (2) 2年生と学校探検に行く。

その後1年生がまだ知らない、興味をもてるような場所に行き、学校に対する興味・関心を広げることができるよう、2年生と事前に打ち合わせをしておく。

- (3) 学校探検のゴールを図書室にする。
・ゴールしたペアから好きな本を選び、一緒に読む。

- 前日に作成した「よろしくね」のカードを活用し、2年生に自己紹介するようにする。

- 当日は協力体制を整えてから実施する。

事前に学校探検の活動のねらいや1年生への関わり方、日時について全教職員に説明し理解を図り、在校生にも学校探検のことを知ってもらおう。

- 授業を行っている教室にも自由に入出りできるようにする。

間近で上級生の姿を見ることができるようになる。

- まずは、1年生が行ってみたい場所や、会ってみたい人の所に行くようにする。

- 事前に2年生に学校探検のマナーについて話し合ってもらい、1年生に伝えることができるようにする。

- 図書室をゴールにすることで、戻ってくる時間に差があっても、1年生が好きな本を2年生と一緒に読みながら過ごすことができるようにする。

3 生活

「みつけたことやきづいたことをしょうかいしよう」

(1/3 時間)

国語「みつけたよ」(1/3 時間)

- ・学校探検で発見した場所や人、もの、ことについて紹介する。

休み時間に、2年生と一緒に本を読んだり、運動場で遊んだりしたい児童がいれば、できるようにする。

- ペアが2組集まって、見つけたことや気付いたこと交流する。交流が終われば別のペアを見つけ、新たな4人で交流する。

- 話をすることが楽しい、話してよかったと思うことができるよう、それぞれの児童の実態に合った評価や助言をする。

〔引用・参考文献〕

文部科学省『小学校学習指導要領』（平成29年3月告示）

文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』（平成29年6月）

文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』（平成29年6月）

厚生労働省『保育所保育指針』（平成20年3月告示）（平成29年3月告示）

厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館（平成20年）

文部科学省『幼稚園教育要領』（平成20年3月告示）（平成29年3月告示）

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館（平成20年）

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成26年4月告示）

内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館（平成27年）

文部科学省『幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）』（平成22年11月）

文部科学省『中央教育審議会 次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』（平成28年8月）

文部科学省『中央教育審議会 教育課程企画特別部会における論点整理について（報告）』（平成27年8月）

文部科学省『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の改善及び必要な方策等について（答申）』

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター スタートカリキュラム スタートブック（平成27年1月）

高知県教育委員会 すべての子どもが「分かる」「できる」授業づくりガイドブック

高知市教育委員会 実践事例集

高知県教育委員会「就学時引き継ぎシート」

高知県教育委員会 家庭支援の記録（例）

助言者

國學院大學 人間開発学部 教授 神長 美津子

松蔭大学 コミュニケーション文化学部 教授 山下 文一（前 高知学園短期大学 准教授）

埼玉県草加市教育委員会 子ども教育連携推進室 室長 嶋田 弘之



高知県保幼小接続期実践プラン

平成 30 年 2 月

高知県教育委員会事務局幼保支援課

〒780-0850 高知市丸ノ内 1 丁目 7 番 52 号

ホームページ <http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311601/>